


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立鷹の巣幼稚園】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）	
2 実施対象者 (学年・人数)	鷹の巣幼稚園 全クラス 22名 保護者 20名 地域の方 30名	
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (たかのすオリンピックタイム) ② 行事名 (長生会との交流・和楽器に親しもう など) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (穴生まつり：鷹見楽太鼓演奏) ② その他 ()	
4 目標 (ねらい)	① 運動遊びを通して、体を動かす楽しさや心地よさを感じながら、友達と一緒にチャレンジしようとする実践意欲を養う。 ② 様々な人との交流を通して、相手に対する礼儀や共によりよく生きようとする心情を培う。 ③ 地域の伝統音楽、日本文化や外国文化にふれる体験を通して、様々な文化の理解と多様性を尊重する態度を育成する。	
5 取組内容	<p>①【たかのすオリンピックタイム：年間を通して】</p> <p>○ 毎日20～30分間、園庭や遊戯室で様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす楽しさを味わう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・園庭：ぱかぽこ、フラフープ、なわとび、竹馬、固定遊具チャレンジ、リレー遊び、鬼ごっこ、ボール遊び など</p> <p>・遊戯室：ジャンピングマット、トランポリン、マット、平均台、巧技台、はしご、跳び箱、鉄棒 など</p> </div> <p>・各遊具の遊び方や安全面での約束を行いながら、取り組む。</p> <p>・年長児は、竹馬挑戦で、教師の支えなしで乗り、自分の目標に向かって最後まであきらめずに取り組む力が養われ、自信につながった。</p> <p>【げんきっこタイム：各学期に1～2回実施】</p> <p>○ 体操教室講師矢幡先生より、運動遊びの指導や運動会取組に向けた教師の研修会を行う。</p> <p>・幼児の発達に応じた運動内容、体を動かすことと身に付いていく力との関係、運動する意味などを学ぶ。学んだ内容を随時『オリンピックタイム』に取り入れ実践した。</p> <p>・体操をしたり、様々な遊具を使って、体の様々な部位を動かしながら柔軟性や平衡感覚、敏捷性を養ったり、体幹を鍛えたりした。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 矢幡先生の げんきっこの タイム </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> キング スラム サッカー 教室 運動 </div>

【★新しい取組★『リズムジャンプ運動』 9月より週2回程度】
 ○ ギラヴァンツ北九州サッカーコーチに、サッカー教室の中で指導を受け、保育に取り入れた。
 ・ 音楽に合わせてラインを跳び越えることで、基礎体力・運動能力向上や、学習意欲・認知能力向上につながる。

②【地域の年長者との交流：年間6回】

○ 年長者の経験を生かして、遊具制作や季節の遊び等を教えていただき、ふれあいの場を多くもち、年長者への尊敬の念をもったり、優しさを実感したりする。
 ・ 交流が進むにつれ、長生会の方々への親しみの気持ちが深まり、ふれあいを楽しみにするようになった。年長者との交流を継続的に行うことが、幼児の健やかな心の成長につながり、交流の意義を感じる。

	月 日	ねらいと主な活動内容
1	6/2(日)	○日曜参観で、親子で竹馬づくりや竹馬乗りを教えていただきながら、一緒に楽しむ。
2	6/11(火)	○長生会の方を知り、一緒に七夕飾り制作を楽しむ。(自己紹介・歌や踊り・ふれあい遊び)
3	9/29(日)	○運動会での頑張る様子を応援していただき、意欲を高めたり、満足感を味わったりする。年長者競技参加
4	11/8(金)	○一緒に、秋の木の実で遊ぶものを作ったり、遊んだりしてふれあうことを楽しむ。(ドングリごま・マツボックリけん玉・歌やじゃんけん遊び)
5	12/13(金)	○凧揚げの仕方を教えていただいたり、一緒に遊んだりしてふれあうことを楽しむ。
6	1/18(土)	○餅米を蒸したり、餅をついたりする様子を見たり、一緒に餅つきやもち丸め、会食を楽しんだりする。

長生会との交流
木の実をおもちやしゅうり



穴生まつり
鷹見楽太鼓演奏

③【鷹見楽太鼓体験(年長月)：5月～2月 計9回】



○ 地域の伝統文化『鷹見楽太鼓』は、地域の貴重な無形文化財として、受け継がれている。保存会の方から教えていただき、成果を地域の祭り『穴生まつり』で披露している。
 ・ 保存会の方には、ばちの持ち方や叩き方だけでなく、礼の仕方などの礼儀作法も教えていただいている。
 ・ 太鼓のリズムは難しく、口伝と独自の楽譜で、竹のばちを持ち、リズムを口ずさみながら繰り返し練習している。
 ・ 10月13日『穴生まつり』では、初めての舞台上で緊張したが、地域の方や保護者の前で、堂々と演奏ができ、会場の拍手や保存会の方に褒められたことで、達成感や充実感を味わった。
 ・ 「年長になったら、『鷹見楽太鼓』を演奏できる」という期待と喜びをもち、「自分たちが受け継いでいる」という自信になっている。地域の方との関わりを深めるふれあいの場となっている。

【トニー先生の英語体験 12月・1月 2回】

○ 歌や絵カードを使ったクイズ、折り紙などを通して、楽しい雰囲気の中で、英語にふれる体験をした。

【★新しい取組★『和楽器に親しもう』 11月】

○ 鷹見楽太鼓の体験から、自文化理解を広げるために、三味線や小太鼓

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">トニー先生の 折り紙英語体験</p>	<p>尺八の演奏と民謡を聴く時間を設定した。講師の先生の唄声を聴いたり、初めての和楽器を鳴らしてみたりすることを幼児や保護者、地域の方も一緒に楽しむことができた。貴重な体験となり、好評だった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; position: absolute; right: 0; top: 50px;">藤永翠珠先生の 三味線奏法体験</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日、継続的に運動遊びに取り組むことで、文部科学省推進幼児の体力向上「1日に60分以上の運動」を達成することができ、運動量も増した。園庭に出て、進んで体を動かして遊ぶ幼児が増え、体力向上や友達との交流にもつながっている。 ○ 体操教室講師の指導より、幼児の発達に応じた遊びを取り入れたり、遊具の有効活用をしたりして、平衡感覚や柔軟性、調整力を養ったり、体幹を鍛えたりした。また、苦手なことやきついと思うことを克服することで、幼児の心の成長にもつながった。 ○ 年間を通して、地域の年長者との交流を継続することで、「人とふれあうことが楽しい」と実感し、コミュニケーションの素地や社会性を養うことができた。 ○ 地域の伝統文化『鷹見楽太鼓』や初めての『和楽器体験』で自国文化、英語体験で異文化にふれ、多様な体験の積み重ねによる幼児の豊かな心の育成につなげることができた。保護者からも、貴重な体験と喜ばれた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本園3年目の取組なので、継続取組内容に新たな内容を取り入れ、全職員で教育目標と事業の目的をつなげながら、心身のバランスの取れた幼児の育ちにつなげるようにした。 ○ 地域に支えられ、『人・もの・こと』を効果的に保育に取り入れることができています。特に地域の伝統文化(和太鼓体験)は園の特色となっている。 ○ 2020年東京オリンピックへの思いを感じながら実践を進められるように、運動タイムを『たかのすオリンピックタイム』と名付けて、運動遊びに楽しく取り組んだり、運動会でオリンピック行進を取り入れたりした。 ○ 幼小の接続を意識した内容を取り入れ、多様な体験の積み重ねと小学校での学びを支える力の育成を目指した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピックやパラリンピックの意義や国際理解を深く追求することは難しいが、幼児が興味をもって楽しく取り組めるように内容を工夫することで、幼児の心に残る活動となると考える。 ○ 保育内容にいかにか効果的に、また、時期的時間的に有効に取組を組み込んでいくとよいかの考察・計画・実施の工夫が必要。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動体験や交流内容等と幼児の心身の育ちを考察し、保育に効果的に取り入れ、小学校へつなぐ幼児の育ちを支えていく。 ○ 自国伝統文化の理解を大切にしながら、幼児の実態に合わせた絵本や歌遊びなどで英語体験(異文化理解)を楽しみ、国際理解につなげるとともに、幼小接続を意識した取組にする。 ○ 保護者や地域へ、取組のよさを発信しながら取組を継続し、取組への理解をさらに進めていく。